

人と人がつながる場所に

～美衣会の地域活動～

地域生活支援センター
「豊田ころもサポート」



オープンスペースでは、さまざまな活動を行っており、地域の方々に開かれた場所として活用できます。相談室(写真右)は、相談者とスタッフとの距離も近く、話しやすい雰囲気を心がけています。

地域生活支援センター「豊田ころもサポート」で、多様な活動プログラムに参加してみませんか？

通称「ころサポ」と呼ばれる地域活動支援センターでは、たくさんの方々につながる場所として、ころの相談をはじめ、オープンスペースを使った創作活動プログラムなど多様な活動を行っています。創作活動は、講師による講座だけではなく、自分の趣味を話す機会を持つ「しゅみ活」など、自分から発信する活動もあります。その他ホームページに記載されている内容以外の活動も始動予定なので、詳しい活動内容や「こんなことをやってみたい」といった相談なども、お電話や直接スタッフまでお問い合わせください。また、オープンスペースのみ利用することもできますので、ご本人はもちろん、そのご家族、支援者やボランティア、地域にお住まいの方々などご利用をご検討されている方は、病院スタッフまでお声がけください。ころの問題について少しでも不安がある方も、楽な気持ちで精神保健福祉士など専門スタッフがいる「ころサポ」をどんどん活用してみてください。

どんな方でも安心して顔を出せる、相談できるセンターを目指しています。



施設長の和田真里さん(右)、管理者の岩松公恵さん(左)

DATA

所在地 / 衣ヶ原病院 アネックス棟
電話 / 0565-32-8112 開所時間 / 9:00～16:00
休館日 / 土・日・祝日、年末年始、盆休み

関連施設

みよしメンタルクリニック

診療時間 / 9:30～12:30(月～土曜日)
17:00～19:00(隔週月・水)
休 診 日 / 日・祝祭日
住 所 / 〒470-0224
みよし市三好町木之本49-2 創建ビル2F
電 話 / 0561-33-1780 FAX / 0561-33-1781
HP <https://www.miyoshi-mc.com/>

社会復帰センター「アポロン」

●デイケア(大規模 定員50名)
受付時間 / 9:00～15:00(月～金曜日)
休 館 日 / 土・日・祝祭日

●デイナイトケア(大規模 定員50名)
受付時間 / 9:00～19:00(月～金曜日)
休 館 日 / 土・日・祝祭日
電 話 / 0565-37-1551

うつ病リワークセンター「ル・クール」

●ル・クール ころも(衣ヶ原病院併設)
開所時間 / 9:00～15:00(月～金曜日)
休 所 日 / 土・日・祝祭日
住 所 / 〒471-0036 豊田市広久手町2-34
電 話 / 0565-32-0991 FAX / 0565-32-0772

●ル・クール みよし(みよしメンタルクリニック併設)
開所時間 / 9:15～12:15(月～金曜日)
休 所 日 / 土・日・祝祭日
住 所 / 〒470-0224
みよし市三好町木之本49-2 創建ビル2F
電 話 / 0561-33-1780 FAX / 0561-33-1781

地域生活支援センター「豊田ころもサポート」(衣ヶ原病院内)

開所時間 / 9:00～16:00(月～金曜日)
休 所 日 / 土・日・祝祭日・年末年始・盆休み
住 所 / 〒471-0036 豊田市広久手町2-34
電 話 / 0565-32-8112

衣ヶ原病院

診療時間 / 9:00～12:00(月～土曜日)
14:00～17:00(月～金曜日)
休 診 日 / 日・祝祭日(火・土曜日午後)
住 所 / 〒471-0036 豊田市広久手町2-34
電 話 / 0565-32-0991 FAX / 0565-32-0772
HP <https://www.koromogahara.or.jp/>

医療法人 美衣会 広報誌
ころも vol.1

発 行 / 2022年6月 発行元 / 医療法人 美衣会 連絡先 / 豊田市広久手町2丁目34番地

広報誌「ころも」へのご意見・ご感想、その他配布に関するお問い合わせなどはお電話またはFAXでお寄せください。

TEL: 0565-32-0991 FAX: 0565-32-0772



医療法人 美衣会 広報誌

ころも

vol.1

2022年6月

特 集

加藤豊文副理事長 × 大島智弘院長対談！

「新生！ 衣ヶ原病院の強みとは」

新病棟の完成を受けて、これまでの衣ヶ原病院とは趣を一新している当院。今回の創刊特集では、何が具体的に変わったのか、そのリニューアルの背景についてお伝えします。



ころ左エ門

ころ美

医療法人美衣会 公式キャラクター

新病棟
2021年8月
完成



新生！衣ヶ原病院の強みとは

院長
大島智弘 氏

愛知医科大学卒。精神科専門医・指導医、てんかん専門医・指導医など。専門は精神医学一般、臨床てんかん学。2022年3月まで愛知医科大学精神科准教授を務める。同年4月に衣ヶ原病院の新院長として就任し、新生・衣ヶ原病院がより地域に根差すことを目指す。



副理事長
加藤豊文 氏

愛知医科大学卒。精神科専門医・指導医、認知症臨床専門医、老年精神医学会認定医、認知症サポート医など。専門は精神医学一般、うつ病リワーク、認知症。新生・衣ヶ原病院のマスクキャラクター、ころ左エ門、ころ美の生みの親でもある。



豊田市では最初の精神科の専門病院として、衣ヶ原の地で65年以上の歴史を刻んできた衣ヶ原病院。社会の変化に伴い、精神科へ求められる役割に敏感に対応しながら病院の改革と発展を続けてきました。今回は、2021年8月の新病棟完成に伴い、新たなステージを歩み始め、進化し続けている衣ヶ原病院について、加藤副理事長と大島院長に話を聞きました。

—2021年に新病棟が完成しました。具体的にどのような点が新しくなりましたか？

加藤副理事長 2021年8月の病棟リニューアルで疾患別の入院体制ができました。145床の入院定床数は以前と変わらないのですが、1床あたりの空間も広くなり、ゆったりと療養できる環境を整えています。A病棟、B病棟、C病棟の3病棟構成となり、各病棟の役割を明確化したことで、看護体制がより強固になりスムーズな連携を図ることが可能になりました。

大島院長 そうですね。すべての治療において多職種との連携を大切にしていますね。当院では、近年増加傾向にある認知症患者さんに対して入院初期から多職種によるチーム医療によって、長期入院患者さんの地域移行を積極的に進めています。そして地域での生活を安心して送っていただけるようにデイケア・ナイトケアや訪問看護を行ってサポートを



しています。認知症患者さんだけでなく、多様な精神疾患に対応できるように施設を新たに整備しましたが、新設のストレスケアユニットはうつ症状などの治療を目的として、ゆったりと開放的な空間で無理なく早期の社会復帰に向けた活動を行っています。



ストレスケアユニットの「リフォート」とは、リラックスとコンフォートを掛け合わせた造語で、安心と快適さを意味しています。

—各病棟の役割の明確化を通して、患者さんの症状に合わせた、より細やかな治療をされているのですね。

加藤副理事長 はい。さらに、病室に関してですが、旧病棟では多床室が多かったんです。しかし、統合失調症や双極性障害などのさまざまな急性期症状にスムーズに対応できるように個室病室を多く配置するようにしました。ストレスケアユニットでは6床すべて個室となっており、入院中に復職のための外来プログラムであるリワークプログラムにつなげるためにプレリワークを積極的に行っています。そうして、うつ病などで休職されている方の症状改善から復職までをスムーズにし、従来なかなか予防できなかった再休職を防ぐ試みを行っています。

—次に、新生・衣ヶ原病院だからこそなせる医療とはどのようなものなのでしょうか？

大島院長 精神科がカバーする領域は幅広く、統合失調症やうつ病、躁うつ病、認知症の他に不登校など児童思春期に多い病態などが挙げられます。当院ではそうした幅広い病態にも対応できる精神科専門医を配置して治療にあたっています。私自身はてんかん外来を担当していますが、精神症状を伴うてんかんの一部については一定の知識を有する精神科医が治療を行う方がよい場合があり、私自身のこれまでの経験を少しでも皆さんに還元したいと思っています。てんかんは「こころ」から「脳」の病気という位置づけが、近年強まる中で、精神科医のてんかん離れが大きな問題となっているのですが、てんかん発作のみならず、精神症状にもアプローチができるのが当院のてんかん外来になると思います。

加藤副理事長 そうですね、てんかん専門医である大島院長の外来は当院ならではの強みだと思います。その他に当院では、認知症専門医を複数配置していますが、精神科病院としては数少ない事例です。外来における鑑別診断および治療から、認知症のBPSD（周辺症状）による入院加療まで行っています。また、複数の地域の老人施設への嘱託医派遣も行っており、入院から施設入所後も引き続き医師が治療や介護支援に携わることができます。また、子どものこころ専門医などによる専門外来も行っていますので、多様な精神科関連疾患の急性期から慢性期まで対応できるのが新生・衣ヶ原病院ならではの医療といえるでしょう。



—多様な精神科関連疾患に幅広く対応されている衣ヶ原病院ですが、そのような質の高い医療を提供し続けるために、病棟のスタッフ層への教育などの取り組みを教えてください。

加藤副理事長 昨今の精神科へのニーズに対応するためには、まずはスタッフの意識の変化も必要になります。そこで、各個人が個別でも知識やケア技術の向上ができるように、外部教材のeラーニングを導入して自己学習ができるようにするなどの取り組みを行っています。



大島院長 看護部では月に1~2回、看護に役立つ知識取得を目的とした動画を視聴する時間を確保し、研修委員会主催の講義を1~2カ月に1回行っています。今後は全スタッフが参加できる企画についても検討していきたいと思っていますし、全病棟の中で治療に関して気づいたことを文献などで少し掘り下げ、医局で共有する時間を持てればとも考えています。

加藤副理事長 コロナ禍前には、愛知医科大学精神科の兼本浩祐教授をお招きし、月1回の医師たちによる症例検討会を行っていましたし、産業保健の観点から地域企業の保健師や産業医を招いた勉強会なども行っていました。今後もコロナ次第ではありますが、そのような機会を設けたいと思っています。

—時代に合わせて変化し続ける衣ヶ原病院が、現在挑戦している地域貢献についてお聞かせください。

大島院長 当院では豊田市地域活動支援センター事業を受託しており、2021年9月に病院アネックス棟に地域生活支援センター「豊田ころもサポート（通称：ころサポ）」を開設いたしました。

加藤副理事長 「ころサポ」は始まったばかりですが、精神障がい者の方々が地域社会へより参加できるように援助する場であり、また憩いの場としてご利用いただいています。豊田加茂地域の方々に対して精神障がいへの理解を促す活動や、患者さんやご家族の生活支援を目標としています。

大島院長 当院でも他院でも病院に通われている方はもちろん、通院されていない方でも市内に居住されている方であれば、レクリエーションなどのグループ活動に参加できますし、精神障がいに関する相談支援を行っています。

—実際にご利用いただいた方からはどのような反応がありましたか？

大島院長 ご利用いただいた方からは「『病院』への相談というものに抵抗があったが、気持ちを楽にして利用できる雰囲気があり、施設も明るく利用できて大変良かった」との感想も寄せられています。障がいのある当事者とそのご家族を対象とした講演活動も行っているため、まずはお気軽に「ころサポ」の活動に参加してみてください。

加藤副理事長 個々の患者さんの生活サポートや障がい者福祉サービス利用のお手伝いもしています。ぜひお問い合わせください。

—ありがとうございました。新生・衣ヶ原病院の強みを生かした精神科治療を今後も期待しています。

